

羽衣石城関連年表

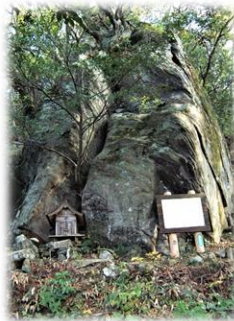
1341 (暦応4)	塩冶高貞と妻子没。次男の貞宗は出雲を経て越前国南条郡に逃れる。
1366 (貞治5)	南条貞宗が羽衣石城を築城。
1524 (大永4)	尼子経久の侵攻により落城（大永の五月崩れ）。城主・南条宗勝に代わり、尼子国久が城主となる。
1540 (天文9)	宗勝が尼子方で安芸吉田郡山城攻めに参加し大敗。大内氏に投降。
1542 (天文11)	宗勝が大内方で出雲月山富田城攻めに参加し大敗。山名祐豊を頼り因幡に逃れる。その後、美作大原へ逃れる。
1562 (永禄5)	毛利氏の台頭により尼子氏が衰退し、宗勝が羽衣石城に復帰。
1564 (永禄7)	宗勝が鹿野城攻めを成功させ、伯耆での勢力を広げる。
1575 (天正3)	宗勝没。元統が家督を継ぐ。
1579 (天正7)	元統が毛利から離反し織田方へ寝返る。吉川元春らの侵攻を受け落城するも、豊臣秀吉の助力により回復。
1582 (天正10)	吉川元春配下の山田重直に占拠され、元統は城を追われる。
1585 (天正13)	豊臣・毛利間で領土の確定が行われ、元統が羽衣石城に復帰。
1591 (天正19)	元統没。元忠が家督を継ぐ。
1600 (慶長5)	関ヶ原の戦いで西軍について元忠敗北。改易となり羽衣石城廃城。その後、大坂冬の陣で元忠没。
1931 (昭和6)	南条氏の子孫がトタン製の模擬天守を建てる。
1990 (平成2)	現在の三重の模擬天守が完成。

上記の年表の一部は後世の伝承等に基づくものであり、史実とは異なる場合があります。

羽衣天女の伝説

あるとき羽衣石山に舞い降りた天女が氷浴びをしていると、麓に住む農夫が岩の上に脱ぎ捨てられた羽衣を見つけて隠してしまった。天へ帰れなくなった天女は仕方なく農夫の妻となり、2人の子どもをもうけた。ある日天女は子ども達から隠し場所を聞きだして羽衣を見つけると、それをまとして天へ帰ってしまった。

2人の子どもは近くの山に駆け登り、鼓を打ち笛を吹き母が好きだった音楽を奏でたが、ついに母が戻ってくることはなかった。その後、天女が舞い降りた山は「羽衣石山」、2人の子どもが鼓を打ち笛を吹いた山は「打吹山」と呼ばれるようになったという。天女の夫を農夫ではなく初代城主・南条貞宗とする伝承もある。



天女が羽衣を置いた羽衣岩

県指定無形民俗文化財 東郷浪人踊

天正7年の南条氏と毛利氏の合戦は東郷池が真っ赤に染まったといわれるほど激しく、翌年の盆から東郷池のほとりで、戦死者の霊を弔うための踊りが始まり、毎年7月に続けられた。その後、関ヶ原の戦いにより羽衣石城が廃城になった翌年、各地に潜んでいた南条氏の浪人たちがどこからともなく集まり、黒紋付に身を包み菅笠で顔を隠し、三々五々の念仏踊りに加わって、夜明けとともにまたどこかへ散っていったという。

この踊りが後に「浪人踊」と呼ばれるようになり、昭和37年には県の無形民俗文化財に指定された。現在も毎年7月に開催される水郷祭で、地元保存会により行われている。



時流に翻弄された中世の山城

羽衣石城

うえしじょう



お問合せ

湯梨浜町教育委員会

〒682-0723 鳥取県東伯郡湯梨浜町久留19-1
湯梨浜町教育委員会事務局生涯学習・人権推進課
TEL 0858-35-5367 FAX 0858-35-5387
MAIL yshogai@yurihama.jp



羽衣石城とは

羽衣石城は、伝承によれば塩冶判官の名で知られる南北朝期の出雲守護・塩冶高貞の次男・南条貞宗を初代城主とし、貞治5年（1366）に築城された。その後、戦国期には尼子・大内・毛利・織田などの攻防により城主・南条氏は落城と回復を繰り返し、慶長5年（1600）関ヶ原の戦いで敗れ廃城となるまで約230年間にわたり使用された、中世の山城である。

標高372mの急峻な山の頂上に、本丸・曲輪（くるわ）・虎口などの遺構が残る。本丸跡からは瓦の出土はなく、城は板葺または草葺であったとみられる。本丸跡は東西66m、南北20m、北西の尾根上を中心に大小多数の曲輪跡が存在し、中世城郭としては相当な規模を誇る。

北西の曲輪には自然の巨石を巧みに利用した形跡もあり、また南条氏の居館であった可能性がある住居跡も存在する。城跡からは主に16世紀の陶磁器・土器が多数出土しており、羽衣石城が16世紀代を中心に、合戦の際の籠城に実用されていたことがうかがえる。

昭和6年に南条氏の子孫が本丸跡に私財を投じてトタン製の模擬天守を建立。その後平成2年に現在の天守へ改築され、平成13年には県史跡に指定された。

羽衣石城跡への行き方

JR松崎駅から駐車場まで車で約10分
駐車場から本丸跡まで登山道を徒歩約30分



羽衣石城略測図

『鳥取県中世城館分布調査報告書 第2集（伯耆編）』所収



羽衣石城の番城跡

羽衣石城の北北東500mに築かれており、標高400mで本城よりも高い。羽衣石城の物見をする砦とみられ、一部に帯曲輪の遺構がみとめられる。

謎の十万寺城跡

羽衣石城跡の南方・十万寺集落の山中に、虎口、土塁、切堀などを備えた壮大な中世山城遺構が残されている。伝承では、南条氏が羽衣石城を築く前に城を築こうとした地とされる。地元では「たいこうがなる」とも呼ばれており、秀吉が中国攻めの際に南条氏を支援するために築いた陣城である可能性も考えられる。



山頂部の城郭遺構